

平成22年度第3回鹿児島市交通事業経営審議会 会議概要

(日程・場所・出席者)

(日 程) 平成23年3月10日(木) 15:00~16:30

(場 所) 市役所東別館9階 特別中会議室

(出席者) 委員9名

(事務局) 交通局総合企画課

(会議の次第・配付資料)

(会次第) (1) (仮称)鹿児島市交通事業経営健全化計画(原案)に関するパブリックコメント手続きの実施結果

(2) (仮称)鹿児島市交通事業経営健全化計画(案)

(3) その他

(配付資料) 資料1 (仮称)鹿児島市交通事業経営健全化計画(原案)に関するパブリックコメント手続きの実施結果

資料2 (仮称)鹿児島市交通事業経営健全化計画(案)

資料3 1月に開催された経営審議会では出された意見の処理状況

(協議の概要)

(1) (仮称)鹿児島市交通事業経営健全化計画(原案)に関するパブリックコメント手続きの実施結果

委員の意見・質疑等	
1	<p>今後、健全化計画に経営審議会がどのように関わっていくことになるのか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>計画推進については、局内に検討委員会を設け、事業の進捗や計画の整合性を図りながら、進捗状況を把握していき、上半期、下半期に分けて経営審議会へ報告する予定である。</p>
2	<p>一般会計においても、経営健全化計画を策定し、予算を編成しているのか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>市は、基本的には総合計画をつくって、総合計画の中で、基本構想があり、基本計画があり、実施計画がある。現在、第五次総合計画を策定中ではあるが、実施計画は3年から4年でローリングをやっていき、実施計画に基づいて、各年度の予算を編成していくというやり方となる。</p> <p>従って、交通局は健全化が喫緊の課題であり、一般会計や他の企業と若干当面目指す方向性が違う。一般会計は総合的なまちづくりという視点で、実施計画のローリングをやっているが、交通局の場合は、経営の健全化が優先するため、健全化計画を策定したいという考えである。</p>
3	<p>バス路線の民間譲渡について、法律的な縛りがあると思うが、全面的な譲渡は可能なのか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>可能な限り、公営の交通機関として、維持存続させていきたいと考えている。</p> <p>また、経営的に成り立つ路線だけを残そうということは選択肢ではあるが、非常に市民の生活に大きな影響があるため、簡単に路線の廃止はできない。当面は7年間の計画の中で、管理の受委託を実施することによって経費節減を図り、この計画期間においては、公営交通として存続をさせていきたいと考えている。</p>

委員の意見・質疑等	
4	<p>バス事業全体として浮上していく方法を考えていけないといけない。</p> <p>同じような価値観とか理念をもっていることが前提であるが、運行地域のすみ分けや共同運行、委託等様々な方法があるが、まだそこまで至るほど機は熟していないようだ。</p> <p>ただし、各バス事業者間の連携が進んでいけばそういう道も可能性としては開けてくるのではないか。</p>
5	<p>意見の処理状況は、公開されるのか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>パブリックコメントの結果は、局のホームページに掲載する予定である。</p>
6	<p>パブリックコメントでの意見、そして回答は、交通局の経営状況を理解していただくための重要なツールとなるのではないか。</p> <p>意見としてこれだけ長い文章を市民の方が書かれるのは、相当大変だと思う。</p> <p>しかし、交通局からの回答が「ご意見として承ります。」の一言だと、冷たいイメージを与えてしまうと思うので、大変かもしれないが、一つ一つのことに対して、丁寧に答えていくことによって、逆に事業全体を理解してもらうツールになるのではないかと思う。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>ご指摘のとおり「ご意見として承ります。」という一言では、不親切であるので、今後検討し、できるだけ丁寧な対応させていただきたい。</p>
7	<p>今回のパブリックコメントの処理区分は、5つあるが、平成21年は4つである。</p> <p>「C 計画の実施にあたり、参考にするもの」の項目が増えている。かなり「C」に区分されるものが、多く含まれている。このCに区分された意見の活かし方を説明していただきたい。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>今回、「C 計画の実施にあたり、参考にするもの」に49件区分させていただいた。その中で、路線のダイヤ毎のご意見については、参考にするということにしているが、實際上、検討する中で、できないものも当然出てくる。もちろん、出来るものもあるが、今の時点では、検討させてくださいということで、「C」という形で整理させてもらっている。</p>

委員の意見・質疑等	
8	<p>「E その他要望、意見、感想等」に対する回答は、「ご意見として承ります。」となっているが、これは、結局、「NO」といっている意味なのか。「C 計画の実施にあたり、参考にするもの」が「実施にあたり参考にして参ります。」であるのに対し、「E」は「ご意見として承ります。」であり、ニュアンスの取り方が難しいと思う。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>委員のご指摘のとおり解釈で、中々実現は難しいという意味で「ご意見として承ります。」という表記にしている。</p>
9	<p>現状では難しいという表現が適当であるかどうかは分からないが、「難しい」という表現があった方が、変な誤解を生まないと思う。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>検討させていただきたい。</p>
10	<p>広告のデザインについて一定の基準を設定すべきとの意見に対し、回答が「ご意見として承ります。」となっているが、困難ということなのか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>広告の内容面については、交通局で審査を行っているが、この指摘はデザインの基準である。市に屋外広告物条例があり、所管課は都市景観課になる。その判断になる。</p>
11	<p>市の方が、条例により判断し、交通局では判断しかねるということなのか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>広告は、都市景観課を通るので、そこでの基準をクリアしたら、特に問題ないと思っている。交通局でデザイン的に網をかけることは、難しいと思っている。但し、基本的に何でも有りというのはいかかなものかと感じるので、局としても意を用いて、局として対応できるところは、対応していかなければいけないと思っている。</p>
12	<p>実際にどぎついものがあったようだ。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>屋外広告物条例が、10月に改正される予定であり、これまで広告物の面積だけに対する規制だったのが、今度の改正条例によって、色合い下地の部分まで規制がかかるようになってくるので、今言われたどぎつい色というのは、そこで網がかぶせられてくる可能</p>

委員の意見・質疑等	
	性が十分高いと思われる。
13	<p>条例ではそういうことで、別の部署を通るといえるはあると思うが、もちろんデザインというのは、見る人によって違うわけで、見て気持ちの良くない広告もあると思っている。10月に改正もあるということなので、それを期待したいと思う。</p>
14	<p>市の交通政策課や桜島フェリーとの連携は、どれくらい密接に図られているのか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>交通政策課や船舶部とは、定期的ということではなく、日常的に意見交換をしている。新たな乗車券やいろいろな課題がある度にお互いの連携を図っているところである。</p>
15	<p>共同運行について、具体的に教えてほしい。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>共同運行を現在実施しているが、例えば10本のうち、5本相手方に運行してもらおうと交通局は5本分の運行経費が浮くことになる。路線の収支をみると、交通局では赤字路線であるが、民間バス事業者ではプラスに転じるような路線について、お願いしている。</p> <p>また、浮いた5本分については、新たに需要があるところがあれば、新たな需要のところを持っていき、新たなサービスの提供ができるのではないかとということである。共同運行をすることにより、局の収入は落ちるが、それ以上に経費節減の効果が大きい。</p> <p>共同運行は、相手の意向もあるため、交通局の都合の良いようにいくとは限らないが、できるだけ共同運行を推進したいと思っている。</p>
16	<p>共同運行が話し合いによってなされるのであれば、その方向にいていただければよい。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>共同運行は、相手があることなので、相手の経営的な面もあるが、できるだけ、共同運行でいきたいと考えている。現在、交通局の経営健全化に向けての取り組みの一つとして、共同運行を推進しているが、将来的には、市域内のバス事業者間の全体的な共同運行というのを本気で考えていく時代がくるのではないかと考えている。</p> <p>お互いが1時間に10本ずつ走らして、お客さんの需要というのは、当然20本分もないのに、10本走らしている状況があるが、それが15本ですむのであれば、お互い7便と8便運行すれば、そこに3便とか2便とか、効率化が図れるので、共同運行の将来</p>

委員の意見・質疑等	
	<p>の理想というのは、そこまでいきつくことが、お互いの事業者にとってのメリットだと思っている。一番いいのは、市民の方にとっては、今10分置きに2台続けてくるのが、5分間隔で来てくれた方がよい。また、そのようなダイヤ編成も出来るので、共同運行をもう少し広く進めていくべきだと思っている。今は、交通局の健全化へ向けて経費節減のために推進していく。</p>
17	<p>それも話し合いによって、組む時に一緒にはできないのか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>現在の状況の中では、お互いにビジネスをしている状況であるため、現実的に難しいと思っている。</p> <p>しかし、将来的には考えていかないと、お互いが共倒れになる状況になる可能性もある。バス事業者全体として、将来に向けての大きな課題である。</p>

(2) (仮称)鹿兒島市交通事業経営健全化計画 (案)

委員の意見・質疑等	
1	<p>委託実施後も、市バスとして運行するため、市民の方から、サービスが低下した等の苦情が寄せられないようにすべきである。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>運行を委託する路線においては、市バス車両が走ることになるため、直営で運行する中央営業所と委託する北営業所・桜島営業所の接客マナーを含めた乗客サービスが違うようなことはあってはならない。</p> <p>このことについては、契約における仕様書に盛り込む等、相手方と詰めて協議していきたい。</p>
2	<p>接客マナー向上のために外部講師による研修を定期的実施することであるが、まだ実施はしていないのか。</p> <p>また、どういう講師を呼んで、何回ぐらいされて、効果があったのか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>研修体系の確立は出来上がっていない状況であるが、23年度の当初予算には、計上しているところである。</p> <p>外部講師による研修については、必要だと認識しているため、1月に3年ぶりに全職員を対象に研修を行ったところである。</p> <p>サービスとは何か、接客とは何か、という部分から考えさせてくれる講義であった。</p>

委員の意見・質疑等	
	受講者からは「これまでの講義とは違い、とても為になった」「今後も続けてほしい」というアンケート結果が寄せられた。
3	<p>小・中学校等が遠足に行くときに、市営バスを使ったらいいと思うのだが、そのようなバスはないのか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>小・中学校での遠足や施設見学等で利用していただいているバス車両は、路線バスを利用している。路線バスの車両は、昼間は結構空いている時間帯があるため、その時間帯を貸切という形でお貸ししているところである。</p>
4	<p>遠足で利用したい際、7組まであったら、バスが足りなくなるのか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>バスの定員が40人ぐらいなので、その範囲内であれば大丈夫である。</p>
5	<p>共同運行については、23年度に路線の拡充とあるが、拡充するのか。それとも、拡充を検討するというのか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>現在、試験運行している路線が幾つかあり、その路線において、相手方の運行本数を増やしていただきたいと考えている。また、共同運行路線において、カードリーダーで定期券の乗車受付ができるよう、システムの変更作業が必要となっている。これらの取り組みを含め、23年度は「拡充」としている。</p>
6	<p>ICカードのデータ活用は、これまでもずっと言われており、個人的には、もっと活用できるはずだと思っているので、活用を図ってほしい。</p>
7	<p>ICカードについては、銀行のキャッシュカードにICチップを組み込んで、JR・市電・民間バスも一体的にできないか。福岡での西鉄・JR・キャッシュカード機能付のものは、かなりコストは掛かっているようだ。県内の金融機関として一緒に交通局・民間のバス会社・JRを含めて何かできないかということで、銀行の方でも研究をやっているところである。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>福岡市交通局が参画しているため、調査した経過があるが、約30億投資をして統一したということを知っている。我々の規模では難しい。鹿児島でICカード乗車券を導入した時期は、他都市よりも早かったため、乗車券に特化したICカードである。カードの活用については、連携が必要だと感じている。</p>

委員の意見・質疑等

8 計画書（案）の中に、アイドリングストップという言葉があるが、アイドリングストップは危険な側面もあるというのが、現在の認識だと思う。そのあたりの市民の方の誤解は大丈夫か。

（事務局回答）

自動でアイドリングストップする装置が、最近購入するバスに付いている。

それ以前のバスは、エンジンがかからずに止まってしまったという事例もあったようであるため、毎回手動でスイッチを切るかどうか、運転士の判断で行っている。

また、夏の冷房をきかせている時期にアイドリングストップをすると冷房が切れてしまい、お客さんが不快になるということもあるので、そのあたりも考慮しながら、強調月間とか設けて取り組んでいるところである。